

カワウの生息状況や飛来数等のモニタリングデータの蓄積

このレポートでは、島根県と鳥取県の県境に位置する「中海」と静岡県西部地域の「天竜川流域」における連携事例を取り上げます。両事例に共通する点は、長期的なモニタリングデータの蓄積があったことです。

中海にはカワウのねぐら・コロニーが複数あり、環境省により継続的に調査が行われていました（中海は、国指定中海鳥獣保護区に指定されているほか、ラムサール条約湿地に登録されており、中国四国地方環境事務所がカワウの調査等を実施しています）。調査結果からは、中海に生息しているカワウの個体数や営巣数の長期的な変化が読み取れます（図1、2）。図1についてみると、かつては松島が主要なコロニーでしたが、そこが消滅して萱島と続島に移ったあと、最終的には萱島のみ残ったことがわかります。

カワウがかつて利用していたねぐら・コロニーは、条件がそろえばまったく新しい場所よりもカワウが再度移動する可能性が高い場所です。このように、過去の分布情報は、各種対策によるカワウの移動を推測する際にとっても重要となります。

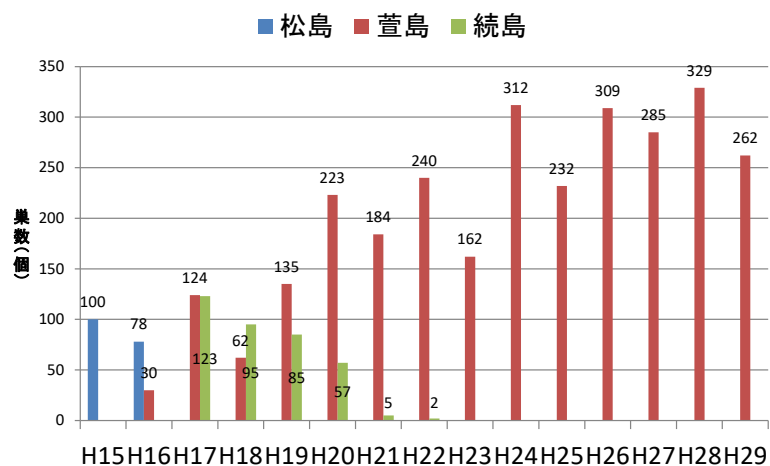


図1. 中海の各コロニーにおけるカワウの営巣数（中海部会提供）

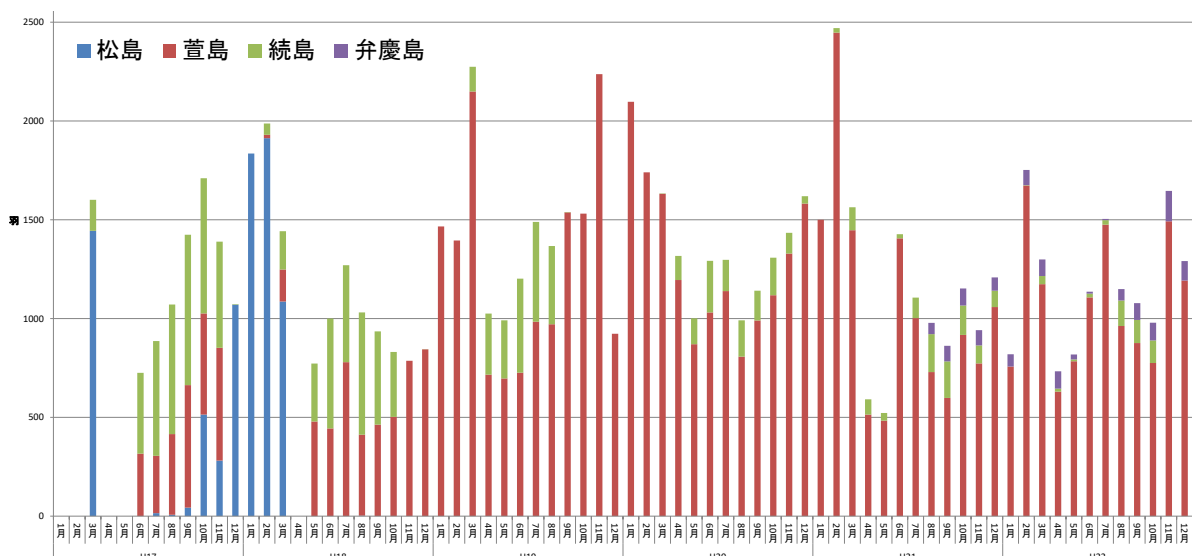


図2. 中海の各ねぐら・コロニーにおけるカワウの個体数（中海部会提供）

静岡県では、平成 17 年から継続して県内全域のねぐら・コロニーの調査をしてきました。それぞれの地域において、どれぐらいの個体数が、どの時期に、どこに分布しているのか、さらにその個体数の増減傾向についても把握することができていました（図 3、4）。例えば、天竜川には河口から上流部のダム湖まで7か所ほどねぐらが存在していることや、天竜川の西隣の浜名湖周辺には個体数の多いねぐらが存在しているといった詳しい状況が把握されています。

静岡県の中でも、県西部の天竜川流域（天竜川とその東側の太田川、西側の浜名湖）は、カワウの個体数が多い地域であったため、静岡県において水系単位の協議会を立ち上げる最初の地域として、選ばれることになりました。

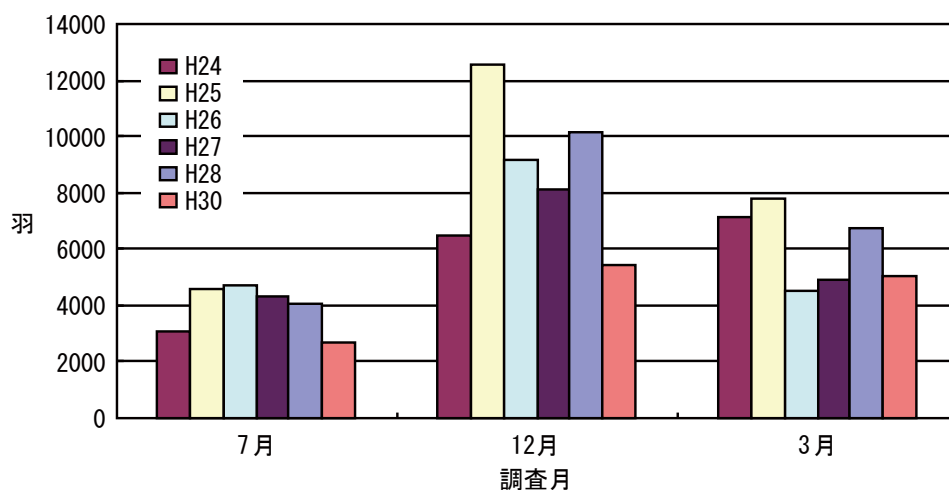


図3. 静岡県における季節ごとのカワウの個体数の推移（静岡県提供）
※ H29 年度は調査未実施

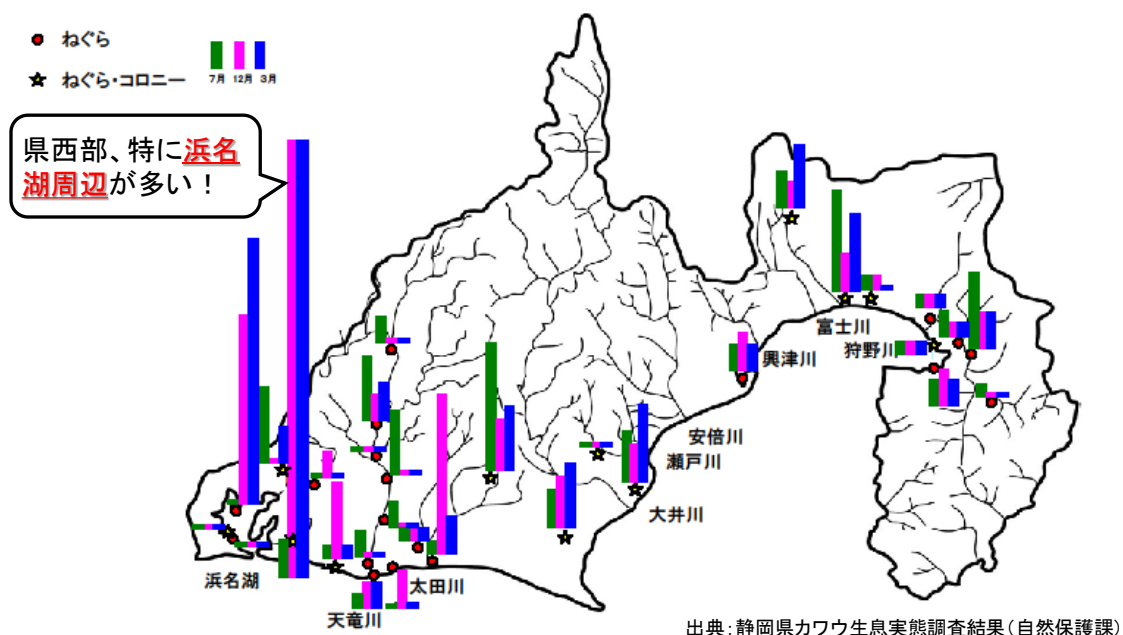


図4. 静岡県内の各ねぐら・コロニーにおけるカワウの個体数（H30 年度）（静岡県提供）